

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

埼玉県 さいたま市

自治体名 : 埼玉県さいたま市

担当課名 : 教育委員会事務局学校教育課教育課程指導課

電話番号 : 048-829-1661

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	217.43 km ²
人口	1,350,047 人
公立中学校数	58 校
公立中学校生徒数	32,173 人
部活動数	851 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

さいたま市では、将来にわたり子どもたちが、地域の中で、自分の興味・関心に応じてスポーツや文化活動を楽しむために、「さいたま市地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備事業」を推進している。

●本市の現状

学校部活動以外で活動している生徒が増加傾向にあります。また、全市的に行った「新しい部活動の在り方に関するアンケート調査」では、希望した種目を担当していない教員が全体の約3割を程度であった。また、教育委員会が配置している「部活動指導員」の数は、年々増加しており、今後も増加していくことが想定される状況である。

さらに、ここ数年、運動部活動数や部活動参加生徒の人数の減少により、近隣の中学校との合同チームで大会に出場する学校が、増加傾向にあり、特に野球、サッカー、ソフトボールの種目において増加傾向にある。

●本市の課題

本市の学校部活動に設置している種目は、運動部19種目、文化部32種目あるが、これらの種目が必ずしも子どものニーズに対応できていないため、土日の地域スポーツ・文化クラブの環境を構築

していくことにより、子どものニーズに応じて取り組める地域クラブを創出する必要がある。

令和6年度は、モデル校3校において、土日に活動する全ての部活動を地域移行することを目指し、指導者を外部の統括団体からの派遣により運営するモデル事業を実施した。

地域移行に伴い、指導者の派遣等の運営管理全般を担う受け皿となる運営団体の立ち上げが必要であることから、さいたま市という大きな規模の統括団体を、どこが担い、どのように持続的に運営していくかが課題である。

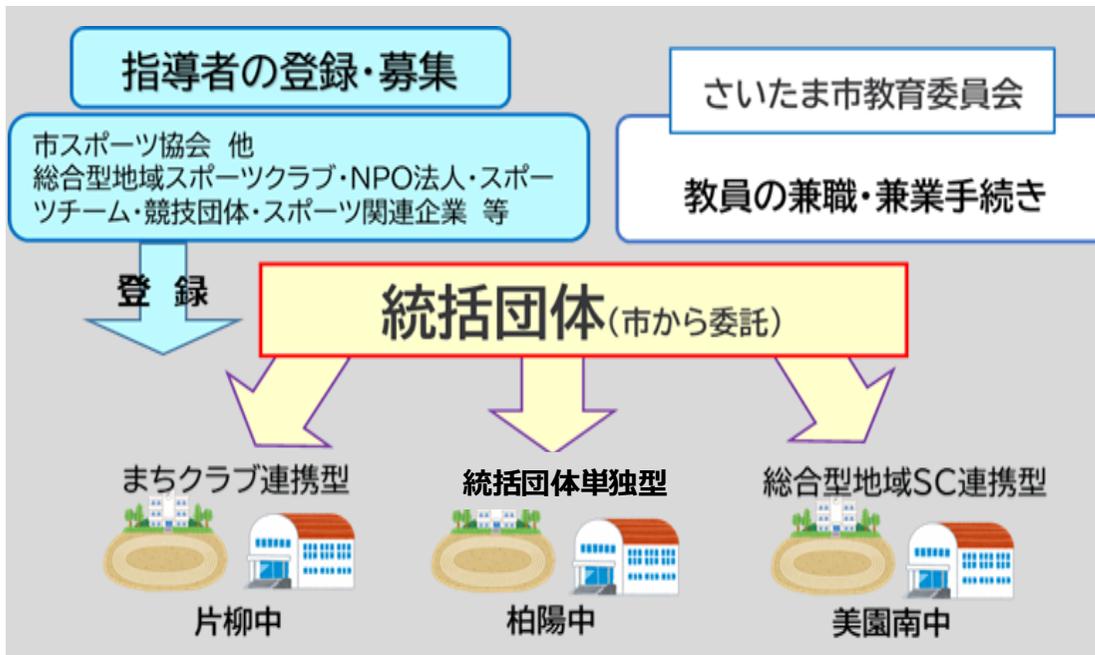
そして、これらを運営していくには、多くの財源が必要となるため、部活動地域移行に係る費用については、運営経費や指導者への謝金等が新たに必要となり、その財源確保は、大きな課題である。

これまで学校教育の中で部活動が培ってきた教育的意義や教育的価値を、いかに地域クラブにおいても継承・発展させていけるかどうか。また、学校においては、これまで部活動の果たしてきた教育的効果を教育課程の中でいかに補っていくのかが、大きな課題である。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・教育課程指導課…休日部活動の地域展開、学校との調整・連携に関する事項について

◎首長部局

・スポーツ振興課…中学生の地域スポーツ活動の環境整備
・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年5月	検証事業①の開始 指導員研修会の開催 指導員の派遣
令和6年6月	指導員の派遣 モデル校ヒアリング
令和6年7月	指導員の派遣 指導員ヒアリング
令和6年8月	検証事業②の開始 指導員研修会の開催 指導員の派遣
令和6年9月	指導員の派遣 モデル校ヒアリング
令和6年10月	指導員の派遣 指導員ヒアリング
令和6年11.12月	指導者の派遣 自立をはぐくむ研修
令和7年1月	指導者の派遣 野球教室
令和7年2.3月	指導者の派遣 協議会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	運動部39部活（18種目）
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		39部活
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		なし
全体の指導者数	73人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
片柳中 10部活	民間事業者	サッカー、男女ソフトテニス、男女卓球、陸上、男女バドミントン、男女バスケットボール、	毎月4回程度	休日	1年62名 2年60名 3年77名 合計199名	2024年 5月～ 2025年 3月	片柳中	16人	2人 (内、兼務1人)	なし	中体連：部活動
柏陽中 13部活	民間事業者	野球、サッカー、陸上、男女ソフトテニス、男女卓球、男女バレーボール、男女バドミントン、男女バスケットボール、	毎月4回程度	休日	1年70名 2年83名 3年67名 合計220名	2024年 5月～ 2025年 3月	柏陽中	22人	2人 (内、兼務1人)	なし	中体連：部活動
美園南中 16部活	民間事業者	野球、サッカー、男女陸上、男女ソフトテニス、男女卓球、男子バレーボール、男女バドミントン、男女バスケットボール、男女ハンドボール、ソフトボール、男女剣道	毎月4回程度	休日	1年187名 2年182名 3年183名 合計552名	2024年 5月～ 2025年 3月	美園南中	35人	2人 (内、兼務1人)	なし	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 野球教室（地元さいたま市日本通運野球部主催）
- 美園南中剣道部生徒への自立に向けた講習会
- 岩槻区内6校を集めた卓球部強化試合
- 確定申告講習会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●地域スポーツ活動体制整備事業 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

【統括団体（Fountain）と指導者での取組】

- 労務管理には【ジョブカン】という専用アプリを利用
- 連絡体制は、Slackを利用
- 業務委託契約書を電子契約にした。

取組の成果

- 【ジョブカン】で指導者が携帯電話からボタン一つで簡単に、労務管理、日報/月報の記載ができるので、提出物を出す必要がなく、指導者から好評であった。
- Slackを使用し、LINE等の個人情報を取得せずに連絡を取れるので、指導者から好評であった。
- 電子契約もスマホ一つでできるので、管理者、指導者ともに非常に楽に契約ができた。

ジョブカン画面



Slack画面

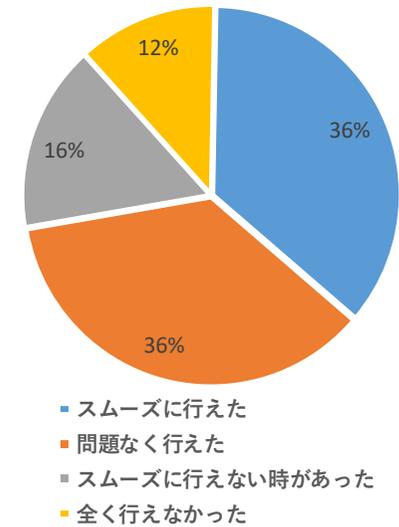


電子契約画面



R6年度アンケート結果（教員向け）

土、日の活動における顧問以外の指導者との連絡調整はスムーズに行えましたか？



学校統括責任者の具体的な動きの実績

- 現場の監視
- 指導者とのコミュニケーション
- 学校との連絡調整
- 保険対応
- 勤怠管理および月報の作成
- 日報および月報の作成

今後の課題と対応方針

事業の規模が拡大し、指導者の人数が増えていった場合、こういった指導者も簡単に操作できて、管理側もデータとして容易まとめることのできるシステムの運用は不可欠である。今回の【ジョブカン】も使い勝手の面で、改良の余地があるので、さらに利便性の高いシステム構築を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●地域スポーツ活動体制整備事業 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

【質の保証】

従来から、さいたま市が手掛けている
“コーチング指導”を継続的に実施

【量の確保】

さいたま市内の関係団体への協力体制の
構築

指導者の人数

73名

登録者属性

- 教員（兼職兼業）49名
- 部活動指導員 6名
- 一般指導者 18名

種目

野球、サッカー、男女陸上、男女ソフトテニス、男女卓球、男女バレーボール、男女バドミントン、男女バスケットボール、男女ハンドボール、ソフトボール、男女剣道

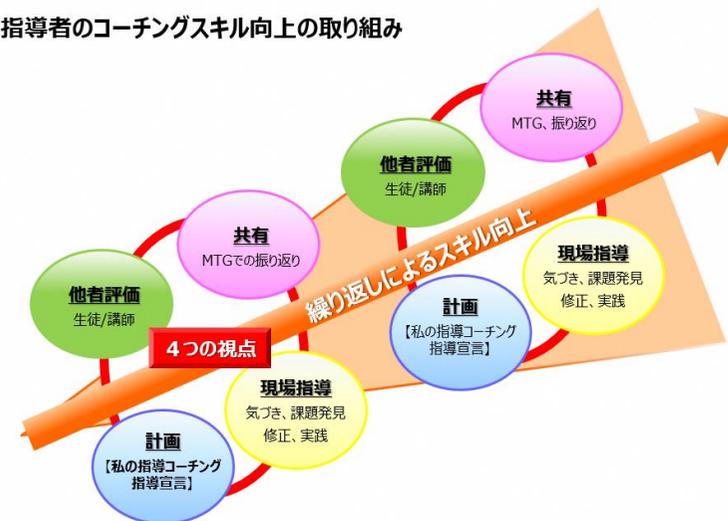
取組の成果

コーチング指導の研修を体系的に実施した結果、指導者から考え方が変わり、指導の質が上がったという意見があった。また、量の確保をするために各団体に地道に声掛けを実施し、スポーツ・文化団体、各競技連盟、保護者、現指導者からのご紹介等で18名の指導者（教員、部活動指導員以外）を集めることができた。

質の保証については、従来からの“コーチング指導”の研修を体系化し、より充実させて継続していくことが望ましい。一方で、量の確保については、関係団体の協力体制は築けたので、次年度以降も継続し、また市内全域に拡大していく場合は、人材バンクを設置するなどの、大規模な仕組み作りが必要と考える。

指導内容①（指導者の育成システム）

■指導者のコーチングスキル向上の取り組み



4つの視点を繰り返すことで、指導者のスキル向上を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●地域スポーツ活動体制整備事業 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（ウ）

- ・統括団体（Fountain）が市スポーツ協会等と連携し、指導者を確保した。
- ・市の関係団体及びステークホルダーに声をかけて協議会を実施した。
- ・学校と連携して進めていくため、中学校長会やPTAの会合等において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。

取組の成果（ウ）

- ・統括団体と市スポ協の連携により、市内の競技団体や連盟への連絡、指導者派遣要請をスムーズに行うことができた。
- ・市スポーツ協会所属団体から指導者を数名確保することができた。また、統括団体から日々の問題や課題を市教委や関係者へ共有し、意見交流が図れた。

今後の課題と対応方針

関係団体（市教委、統括団体、市スポ協、プロスポーツ組織団体、人材派遣会社等）の連携強化を図り、研究協議会等で検討を進めていく。

- ・指導者、受け皿となる団体、予算の確保・・・継続的な指導者の確保のために、地域団体の連携と育成が課題である。
- ・指導者の指導力の担保と責任の所在の明確化・・・今後さらに規模が拡大していくと、指導者が増加し、指導者の指導力の担保が必要になる。部活動の質が低下しないようにすることが課題となり、また、指導中の事故やトラブル発生時の責任が曖昧にしない体制を構築することで、指導者の質を確保する必要がある。
- ・学校の施設管理、事故やトラブル発生時の責任の所在の明確化・・・活動時の施設の責任が明確になっていないと、事故発生時の対応が遅れる可能性がある。責任所在の曖昧さは、関係者間の摩擦を引き起こす可能性がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●地域スポーツ活動体制整備事業

取組事項

【日本通運野球部による野球教室】

- 地元さいたま市で活動をしている日本通運野球部選手による野球教室の実施

毎日新聞さいたま版に掲載 (2025年1月14日)



オ：内容の充実①

活動の詳細			
参加人数	40人	指導者数	3人
属性	日本通運野球部による野球教室 参加部：柏陽中野球部、美園南中野球部、美園南中ソフトボール部		
具体的な内容	2025年1月13日（祝・月）に日本通運野球部現役選手3名が、美園南中学校グラウンドに来て頂き、野球教室を実施。アップ、キャッチボール、守備練習、バッティングを生徒たちに教えた。		
生徒の声	● 普段、社会人野球の選手に教わることはないので、とても楽しく、また技術的にも良い話が聞けた		
関係者の声	● 少子化が進み、また子どもたちの運動能力が年々低下している傾向にある昨今で、こういった専門性が高い方に教わる機会を得ることで、子どもたちのモチベーションアップや、その競技をやってみる（継続する）きっかけになるので、こういった取り組みはぜひ各地でやってほしい		
運営経費	0円 ※統括団体（Fountain）代表の米田が、埼玉県野球協会常務理事を務めている関係で実現し、経費は無料で実施。		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●地域スポーツ活動体制整備事業 ク：その他の取組

取組事項

【生徒たちの自立を育む講習会】美園南中剣道部へ自立を育む講習を実施

活動の詳細	
参加人数	25人
属性	統括団体（Fountain）の2名の講師による生徒たちの自立を育む講習
具体的な内容	2024年12月22日（日）に生徒たちの自立を育む為に、【問題解決手法】および【目標設定】について約2時間、講習を実施
運営経費	0円 ※統括団体ファウンテンの理念に、子どもたちの自立を育むこともあり、実施。

生徒たち全員の感想文を書いた文集を頂き、全員から良かったという声を頂いた。

※下記は感想の一部を紹介



刑部さん、米田さん
 先日はご多忙の中、私たちのために講演会を開いてくださりありがとうございました。
 様々なことを教えていただきました。こんな場面でも役立つけれど、学校では時間をとって習うことがない考えや、スキルを多く学ぶことができました。目標と目的の違いをはじめ、知らなかったことを知れた時間でもありました。また、問題から施策まで考えるマンガチャートを作る、等その場やってみることで、自分のこれからはつなげやすくなりました。お二人のお話はとても面白く、楽しみながら聞かせていただき、ありがとうございました。本当にありがとうございました。

刑部さん、米田さん
 目標設定や問題解決に向けての素晴らしい講演ありがとうございました。
 目的の意味や目標を明確に具体的に書き出すことで私が今何をすれば良いのかを再確認できました。
 刑部さんと米田さんのお話を聞いて「冬季大会優勝」と「レギュラーメンバーに入るの2つを目標に一生懸命剣道修行し、自分と向きあっていこう」と改めて強く思いました。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

さいたま市という大きな規模の統括団体を、どこが担い、どのように持続的に運営していくかが課題である。今後、モデル校を増加していく上で、全市展開に当たり市内の地域状況の違いから生じる課題もある。

・【郊外部】生徒数の減少に伴い、部活動を維持することが困難になってきており、合同部活動の増加、休部や廃部の検討の必要性が出てきている。

・【都市部】生徒数が増加している学校もあり、単独での部活動の実施は可能だが、部活動の数が多いため、地域移行に伴う指導者や活動場所の確保などが課題である。

●成果の評価

・保護者の59%は、本事業についてお子さんの活動は「充実していると思う」、「どちらかという充実していると思う」と回答した。

・本事業のメリット、デメリットについて、メリットは「専門的な指導が受けられる」、「教員の負担軽減につながる」という声が多く、デメリットとしては「指導者の資質についての不安」、「平日と土日の指導が分かれていることへの調整が必要」、「部活動の地域移行の今後の方向性等について説明が必要」という回答があった。

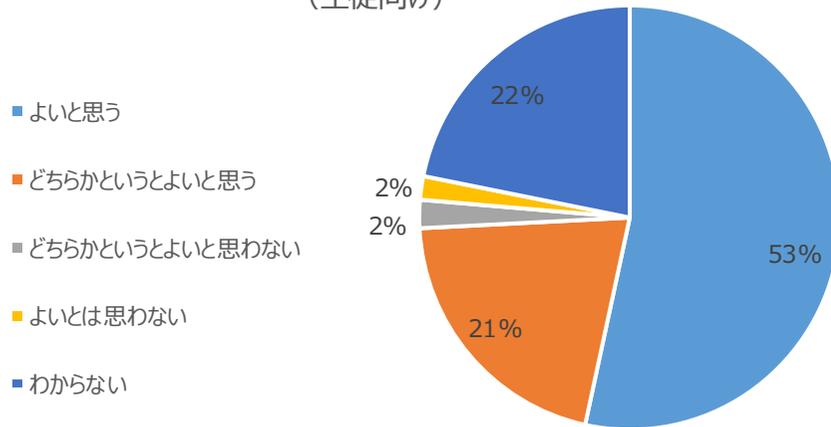
●今後に向けて

- ①指導者の質や量の確保については、現在のモデル校3校では、兼職兼業を希望する教員が7割近いため、統括団体の指導者確保の負担が小さいことから、兼職兼業を希望する教員が少ない学校で実証研究を進める必要がある。
- ②複数の統括団体での検証について、本市の規模の場合、複数の統括団体で運営することが想定されるため、統括団体ごとの指導者の質、運営方法や運営費の差など、統括団体間の違いを検証する必要がある。
- ③合同部活動や拠点校部活動の実施検証については、合同部活動や拠点校部活動を実施する際の運営のあり方や生徒の活動の質の変化について検証する必要がある。
- ④平日と土日の連携について、平日も含めた部活動地域移行とならない限りは、土日と平日の指導者の違いにより、様々な問題が生ずる。
(例) 怪我の問題、いじめの問題、体罰・暴言等不適切な指導などの問題等
- ⑤受益者負担のあり方の検討について、運営資金の確保や費用負担の考え方の整理(受益者負担額や受益者負担の仕組みづくり)の検討が必要になってくる。
- ⑥方針や計画、進捗状況の情報提供が、保護者や地域、各学校に対して出来ていない。

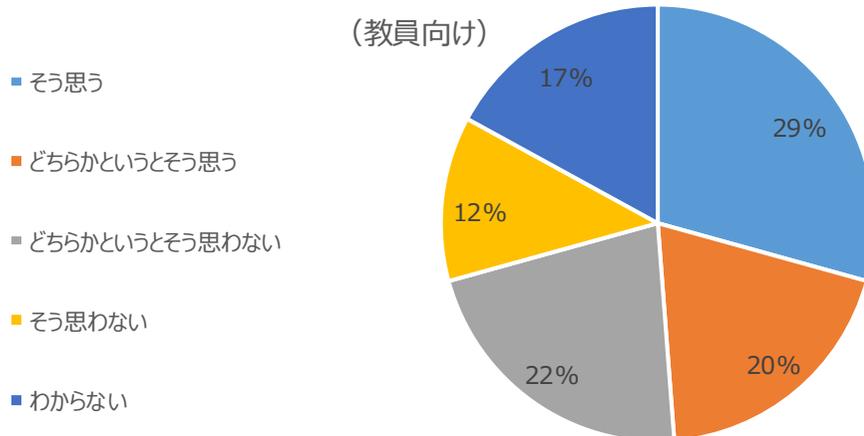
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

顧問の先生以外の指導者の指導は、いかがでしたか？
(生徒向け)



本事業は教員の負担軽減につながりましたか？
(教員向け)



●参加者の声

生徒

専門的な知識や、練習内容を効果的なものにしてきて、とても良い活動になった。ずっと続いてほしい。

生徒

顧問の先生とは違ったやり方がわかってよかった。

教員

良い取組である。課題として、次の点が挙げられる。各部、教員と地域指導者両方いることが望ましい。また、それぞれ複数いるとより良い。指導よりも大会運営、審判業務、試合日程調整等が負担に感じている。そこを担ってくれる人がいると嬉しい。保護者としては引率や会計業務を担ってくれるとありがたいとのことである。

教員

教員をしながら部活動指導員として今年度兼職兼業をして、別途で給与＋交通費が出るということで金銭的な負担感は軽減した。今後も今年度のような取り組みが全市に広がっていくと良いと思う。

教員

外部指導者が問題を起こしてしまった場合、結局学校に問題が持ち込まれてしまい、負担が増えることが予想される。そのため、外部指導者の資格・事前研修が必須だと思う。また、外部で起きたことを学校と線引きできるようにすべきだと思う。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【柏陽中陸上部】



【事前研修（AED実践）】



【さいたま市岩槻区内6校を集めた卓球部強化試合】



【確定申告講習会】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

さいたま市地域スポーツ・文化活動体制研究協議会

- ・学校教育部
- ・管理部
- ・生涯学習部
- ・スポーツ部
- ・文化部

関連部長会

ワーキンググループ会議 (WG)

I ビジョン

子どもの将来のスポーツ・文化環境の構築に係るビジョン策定に向けた検討

II 財源・施設

持続可能な財源や施設の活用について検討

III モデル校の検証

地域移行に向けたモデル事業について検証

< 委員 >

- さいたま市教育委員会 教育長
- さいたま市教育委員会 副教育長
- さいたま市教育委員会 学校教育部長
- さいたま市スポーツ文化局 スポーツ部長
- さいたま市スポーツ文化局 文化部長
- さいたま市小・中・中等・高等学校校長会の代表者
- さいたま市中学校体育連盟の代表者
- さいたま市中学校吹奏楽連盟の代表者
- 研究実践校の代表者
- (公財)さいたま市スポーツ協会の代表者
- さいたま市総合型地域スポーツクラブの代表者
- (一社)さいたまスポーツコミッションの代表者
- プロスポーツチームの代表者
- (公財)さいたま市文化振興事業団の代表者
- さいたま市文化協会の代表者
- さいたま市美術家協会の代表者
- 埼玉県野球協会の代表者
- さいたま市スポーツアドバイザー
- 地域保護者の代表者
- 部活動地域移行に係る統括団体の代表者

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

新たな子どものスポーツ・文化環境の構築のロードマップ（イメージ）

現状のままの未来

子どもたちのスポーツや文化活動を担う学校での部活動が先細りすることで、スポーツや文化活動の機会が減少する

教育的意義
部活動が担っていた教育的効果を学校でどのように担っていくか。

意識改革
学校の教員等の意識改革

R5統括団体モデル事業
R5協議会の設置
(ビジョンの策定)

2022 (R4年度)

学校

現在地

部活動の地域移行提言

学習指導要領の改訂
2026 (R8年度末予定)

更なる改革推進期間
(フェーズ2)

改革集中期間
(フェーズ1)

数十年後

20××
持続可能な環境

浸透と洗練の時期
(フェーズ3)

目指していく姿（ビジョン）

子どもたちが、地域の中で、自分の興味に応じてスポーツや文化活動を楽しむ

生徒の興味関心に応じてスポーツや文化活動の機会が確保され、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフや文化活動に親しめる生活を実現する

取組1 全市的な推進体制および市内の推進体制づくり

目的：全庁的、全市的な推進体制を構築し、地域のスポーツ団体、関連団体、有識者、学校関係者と共に目指すべきビジョンを定めることを目的とする協議会を設立する。

ミッション① 新しいスポーツ・文化環境について目指すべき姿（目標）を定める。

ミッション② 専門的知見から本市における統括団体の在り方や指導者確保について、財源確保等の課題についての協議を行う。

取組2 学校での実例づくり(統括団体による実際の運営の実証)

さいたま市地域部活動に係る統括団体実証運営業務

目的：地域部活動に係る統括団体として、実証的に地域部活動の運営を行うことにより、統括団体として必要な業務の洗い出し及び収支を含む持続的な運営の在り方の検証を図る。

内容：●教育委員会の指定する3校に対して指導者等を派遣し、休日の地域部活動を運営し、調整全般を行う。

●実施時間帯で発生した事象に係る保護者対応や、緊急時の対応を統括団体の責任下で迅速かつ適切に行う。

【現状】>部活動指導を担う教員の7割が、部活動顧問として負担感を感じており、主な理由として「校務と部活動の両立」を挙げている。

>人口増加する本市にあって、生徒数の減少により合同部活動の実施や、部の減少が起きている中学校が存在し始めている。

【必要性】●部活動の在り方を整理、整備することで、子どもたちのスポーツ文化の機会を確保し、豊かな教育活動を営む